

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770700126		
法人名	特定非営利活動法人菜の花		
事業所名	グループホーム菜の花・羽咋		
所在地	羽咋市大川町1丁目34-1		
自己評価作成日	平成 31年 1月 29日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成31年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① H30年度の目標は、「常勤職員の質の均一化」であったが、幹部職員2名の力量不足もあり、均一化と質向上に努力したが、思う様な成果は上げられなかった。ただ、全職員が「1週間の予定」「1ヶ月の予定」をしっかりと把握し、「重点的なケアを必要とする人の把握」「病状が不安定な人の気配りすべきケアの把握」は良く出来たと思う。
 ② 当事業所は「介護は人材が全てだ」と考えていて、今回、新職員が2~3名加わるようになった。GHという狭い空間で、固定した職員による人間関係よりも、新しい視線を持った職員が加わるのは得難い一面も多く、貴重な機会を大切にしたい。
 (平均年齢 83.2 歳/平均要介護度 2.6)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との付き合いは、町会の花壇の花苗植え付けに参加したり、秋祭りの御神輿を見に行ったり、図書館を利用したり、散歩時に近所の人と話したりと当たり前の交流をしている。食材や日用品の買い出しに近くのお店やスーパーに利用者と一緒に出かけたり、月に一、二度は喫茶店でカラオケを楽しんだり、グループホーム便りができたときには近隣に配布して事業所のことをより理解してもらうように努めている。
 食事を楽しむために、職員も一緒に同じテーブルに座り、同じ物を食べている。詰まらないように、ゆっくり食べるように声かけしたり、食材の話、味はどうか、昔の話などしている。毎週日曜日は、バイキングデーであり、そのため日曜日の前までに「何を食べたいか」を聞いている。希望の出たメニューを何種類か作り、皆で好きなものを食べて楽しんでいる。誕生会や季節の行事ごとでは、いつもより少しだけ豪華な食事を楽しんでいる。また、おやつ時間のドリンクは好みのものを選んだり、手作りおやつを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模施設が得意とする濃やかな個別ケアの実践に努めていて、「うちのばあちゃんだったら、どうする？」を合言葉に、管理者・全職員が心を一つにして努力した。穏やかな1年であった。	「年老いて、病んでも街中で、普段どおりくらしませんか！！」という理念と「自分のおばあちゃんやったらどうする？」を行動指針としている。管理者は新しい職員が入ったらパンフレットを見せながら理念について説明している。また、ケアにつまずいたり、迷ったりしたときには理念に立ち戻り検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、公民館での催し・神社のお祭り・町内会の草むしり等に参加したが、これ以上の交流が出来なかった。運推には民生委員さんの参加を頂いている。	町会の花壇の花苗植え付けに参加したり、秋祭りの御神輿を見に行ったり、図書館を利用したり、散歩時に近所の人と話したりと当たり前の交流をしている。食材や日用品の買い出しに近くのお店やスーパーに利用者と一緒に出かけたり、月に一二度は喫茶店でカラオケを楽しんだり、グループホーム便りができたときには近隣に配布して事業所のことをより理解してもらうように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会主催の近所の川沿いの花植えは、雨天の為に参加出来なかったが、次回の河川愛護と、道路愛護デーには参加し、ご近所との関係を深めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月の運推には利用者が参加され、多弁の為に司会者が収集するのに苦勞する一面もあった。1月運推の議題は非常に重要なことと考え、2月請求書発送時に、参加されなかった家族さんに、議事録と資料を送付予定。	介護保険課、地域包括、民生委員、家族、利用者等が参加して今年度すでに5回開催している。6回目は3月21日に開催予定となっている。「29年度自己評価について」「非常事態時の法人内の協力体制」「新料金体系」など毎回テーマを決めて話し合いを行っている。第5回目の会議(今年1月)では「入居中の親から学ぶ。自分たちの老後対策」というテーマで開催され、参加した市の職員から「羽咋市で終末医療のパンフレットを作ったが、菜の花の資料を見てこんなことも必要なのだと気づかされた」という発言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH便りを羽咋市担当課に持参して、当GHの近況をお知らせしている。	日常的に連絡することはないが、市主催の研修やセミナーには参加するように心がけている。最近では救急救命の研修に参加している。市の事業者連絡会には代表が参加して行政説明や研修などを受けている。「菜の花・羽咋」便りが出来上がったときには市に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令改訂に伴い、定期的に全職員に身体的拘束防止マニュアルを回覧し、幹部職員は3ヶ月に1回、身体的拘束等適正化委員会で拘束の是非を話し合い、身体的拘束をしなくてよいケアへの、努力を重ねている。	「身体拘束適正化マニュアル」があり身体拘束等適正化委員会を3ヶ月に一度開催して拘束事例の有無、今後拘束の虞はないかを検討している。研修もミーティング時に実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠は防犯上の目的で行っていて、センサーなどを使用している人はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、虐待がいけないことを正しく理解している。利用者は耳が遠く、職員は大きな声で話しがちだが、言葉遣いが乱暴に聞こえて、あたかも虐待のようにならないか？職員チェックリスト等で問いかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、「日常生活自立支援事業」を活用されている方がいたが、現在の利用者に該当者はいない。家族や本人が望めば、支援する体制が十分に整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、当GHの料金体系・運営方針・介護への取り組み等の十分な説明を行い、必要な時は、請求書に「お知らせ」を同封したり、GH便りに記載したり等の努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年の運推会議で、代表者自ら、経営状況・運営方針等を説明し、家族の要望を聞く機会を設けている。毎月職員は、利用者希望調査を行い、実践と改善に努め、シーツ交換時には、家族にコメントを求めている。	苦情の体制は重要事項や事業所内の掲示により利用者家族に周知されている。苦情があったときには苦情受付・報告書に苦情の内容、申出人の希望、事実の流れを記入し理事長からの指導や処理方法について記録している。毎月シーツ交換の日に家族に来てもらい家族と職員が話し合う時間を作っているほか運営推進会議にもできるだけ家族に参加してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、NPO法人菜の花グループのGH管理者会議や、全体職員会議、ミニスタッフ会議等を設けて職員の意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は夜勤も含め、職員と同じシフト勤務に就いているのでいつでも職員から意見や提案を受けることができる。代表者も月に一度は事業所を訪問したり、週に2回は電話で事業所と連絡を取り、そのときに職員と話し合っている。必要があればその都度管理者を通じて代表者に職員意見は伝達される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は高く、代表者は残業しない仕事のやり方を強く指導し、定時帰宅を求めている、当GHは、ほぼ出来ている。又、代表者は本人の努力に対して正しく評価を行い、素早く賃上げを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常勤職員に力量がないことは把握していて、職員教育に力を入れていたが、思うような成果が上がらなかった。ただ、該当職員は精一杯の努力をした。努力は評価しなければならない。又、職員を育てる為に、定時帰宅の徹底を強く指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はGH運営やケア内容について積極的に学び、職員に他GH見学を勧め、事業者連絡会主催の相互研修に多数の職員が参加した。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は全職員1人2声運動を実施する等して、利用者が不安に思っていることや、困っていること等に耳を傾け、信頼関係作りに最大限努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日間に渡り、利用者の様子を電話で知らせたり、入居者特集号を郵送したりして不安感解消に努め、利用者・家族双方が、安心出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この問いはGHの理想の姿であるが、「他のサービス利用も含めた対応」まではしていない。ただGHよりも療養型が相応しいケースや、在宅のままの方が相応しいと判断した時は、そのようにアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当GHでは、漬け物・梅干し・らっきょう・水ブキ・梅酒等を漬けるが、若い職員は何も知らず、利用者に笑われながら指導を受けている。ギブ&テイクの良い関係である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からは野菜等を頂くことも多く、概ね良い関係と思うが、家族からの職員への苦情が2件あった。該当職員には厳重に注意し、組織としても謝ったが、このようなことはあってはならないことだと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当GHは入居前に住んでいた地域との関係継続が大切と考え、家族の協力を得て、馴染みの店や美容院等の外出支援、交友関係継続に努めているが、全ての家族の協力が得られるとは言い難い。	ご飯茶碗や湯飲み、箸などは家で使っていたものを持ってきてもらっている。自分のお気に入りの服や使い慣れた寝具も皆持ってきている。入居後も友人が遊びに来たり、友人のところへ遊びに行ったり交流を続けている。盆や正月には、強制ではなく帰省の願いを事業所から家族にして約半数の人が帰宅している。ドライブがてら自宅の付近まで出かけることも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に支え合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人ひとりの生活歴や性格を把握し、得意なことを活かしながら、利用者同士が共に支え合い、関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「退居者特集号」を作り家族に送付し、定期的に転出先の施設等へのお見舞いや年賀状送付を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在所のお地蔵様に定期的にお参りに出掛けたり、外出願望の強い利用者さんのドライブを積極的に行ったり、利用者の意向の把握は全力で取り組んでいる。	利用者とのコミュニケーションをとるために目線を合わせて否定せず、傾聴して思いを受け止めるように心がけている。一人ひとりの理解のためには家族から家での暮らしぶりを聴いたり、本人からどんな生活をしてきたかを聴いたり介護計画書をしっかり読み込んでいる。また、毎月利用者から希望を聴いてそれを実行できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入居前の生活をケアプランに表記し、全職員が把握している。そして、無理に過去の生活歴を聞こうとせず、現在の姿をありのまま、受け止めようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、1人ひとりの一日のスケジュール、心身状態、有する力の把握に努めている。朝夕の申し送り時に、注意すべきことがあった時は、必ず伝達している。伝達は職員数が少ないこともあり、スムーズに行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を伺い、職員で話し合っ て、ケアプランを立案している。また毎月ケアの 目標を定め、月末には職員全員でモニタリング を行い、翌月に反映させている。	入居時には暫定プランを作成し、1か月後を目 途に本プランを作成する。職員全員でアセス メントしてミーティング時にサービス担当者会議 を開催し毎月末にモニタリングをし、大きな変 化がなくても12カ月に一度は計画を更新してい る。記録は個別日報(ケース記録)と排泄・食 事・水分の記録がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報を見直し、より健康管理がスムーズ に出来るよう「健康管理表」を作成している。そ して、表に基づき、日々の健康状態を詳しく確 認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情に応じて医療機関の受診代行、 シーツ交換時の洗濯代行、家族に代わって理 美容店同伴、外食同伴等の柔軟なサービス提 供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	綺麗に掃除された河川敷の散歩を楽しみ、徒 歩数分の食料品店に買い物に出掛けたりし て、大川地区の地域資源を十分に活用し、暮 らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は腰が低く何でも相談し易く、急ぎの往 診にも対応くださる。H30年度も又、1ヶ月1家族 ずつ主治医の往診に立ち会って頂き、診療内 容や薬剤について、家族自ら説明を受けて頂 いた。又、シーツ交換時に往診結果を家族に、 毎月伝えている。	現在8人の利用者が協力医療機関を主治医 としている。残りの一人は地域の公立病院へ 通院している。協力医療機関は往診してくれて 24時間オンコール体制をとってくれているので 家族、職員の安心感は大きい。内科以外を受 診する時には協力医療機関の紹介状を持って 家族と一緒に受診する。また、毎年歯科検診も 実施しており、協力歯科医療機関に行き、う蝕 等無いかチェックして口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	訪看あわらは非常に優秀な看護ステーション である。職員が困った時はいつでも相談出、 又、訪看も直ちに駆けつける体制が出来てい る。大ヒットの訪看である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時は、介護記録を医療機関に送付し、必 要に応じて病棟等を訪ねている。そしてお見舞 いに伺い、又、家族と連絡を取り合い、利用者 の状態を相談したり、医療機関の相談員や当 GH主治医と連絡を取り、早期退院に努めてい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当GHの看取り方針を十分に説明している。過去に数例、医療機関との連携のもと看取りを行った。	入浴が難しくなって来たり(浴槽のまたぎができない)、口から食物を摂取することができなくなったり、移動移乗に常時介護が必要になってきたら次の施設への移行を家族と検討する。看取りの最近の事例では、家族からここで看取ってほしいとの希望があり、家族、主治医、ホームと話し合い看取りの方向で合意し、訪問看護を利用しながら生活し続けて最後家族に見守られながら息を引き取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は繰り返し、緊急マニュアルを基に訓練を行っていて、又、救急救命訓練を受講済だが、非常時、職員がマニュアルを基に、咄嗟の判断を加えて動けるか？ と言うと、難しい。介護職員の欠点は、総合的判断力の欠如である。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	当GHでは独自の緊急マニュアルを作成し、毎月5・15・25日に緊急対応訓練を行っていて、本年度は特に「緊急時の連絡方法」についてマニュアルを作り、端的に、いち早く病状・身体状況について報告出来る訓練を行った。	「緊急時マニュアルファイル」があり、この中に「無断外出マニュアル」、「救急対応マニュアル」、「異変の観察ポイント」、「誤飲・窒息・のど詰まり・異食時・低血糖対応マニュアル」、「感染予防マニュアル」などがファイルされている。毎月5日、15日、25日に緊急マニュアルを使って、「緊急対応訓練」を行っており、各職員への周知への取り組みにもなっている。マニュアルは、年度末には見直し、それ以外は必要時に随時見直している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との連携は十分にあるが、連携施設の特養とは、日常の実質的な交流がない。これは非常時を想定したバックアップと考えられるが、この制度そのものに実行力があるのか？ 未だ、よく理解出来ない。	ほとんどの方が協力医療機関を主治医としており、月1回往診に来てもらっている。また、緊急時の対応も可能で、1年を通し24時間連絡が可能である。1名は町立病院に、家族と一緒に受診している。受診時には、本人の状態を家族に話し、受診後は家族から医師の話の内容を聞いている。その他、前田歯科には、年1回歯科検診のため利用者全員が受診している。バックアップ施設は、すぐ近くの老人福祉施設であり、ホームだよりを配布したり、情報交換や重度者の対応などで連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	地元の職員もいるが、緊急時には直ちに駆けつけられるよう、職員に携帯の24時間保持をお願いしている。	1ユニットで1人夜勤である。夜勤者が1人だけになる時間帯は、午後9時30分から翌朝6時である。状態の変化があった場合は、マニュアルに沿って理事長へ連絡し、指示をもらっている。また、夜勤者1人の時に救急車を呼んだ場合は、マニュアルに沿って夜勤者が、搬送病院が決まったら家族へ連絡し、家族に搬送先病院へ向かってもらう。1人夜勤体制であるので、職員へは、緊急な場合の応援が必要な場合もあるので、常に携帯電話を側に置いておくよう話している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	嚴重に火災訓練を年2回実施した。本年度は通報装置付火災報知器が導入され、消防に通報しなくてよいマニュアルに改善したが、広い居間の火災では無理があることが判明し、元のマニュアルに戻すことになった。	平成30年4月10日と11月20日に消防署立ち会いで、総合訓練を実施している。訓練は、夜間想定で訓練計画を策定し、計画に沿って訓練を行い、訓練後には訓練報告書を作成し、「訓練で気づいたこと」などを記録し、全員に回覧することで、職員の防災意識を高めている。また年2回、5月と11月に「防火職員自己チェックリスト」も実施している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	非常時にはボタン1つで、代表者・管理者・法人内関連GHに携帯電話がつながるようにセットされているなどの、濃やかな体制が整備されている。	毎月5日、15日、25日緊急マニュアルを使って、「緊急対応訓練」を行っており、各職員への周知への取り組みにもなっている。また、「非常災害対策計画(水害・土砂災害を含む)」が作成されており、避難場所、避難経路、避難方法などが示されている。マニュアルの見直しは、年度末に行い、また必要時随時見直している。備蓄については、「非常時チェックリスト」として「非常用備品一覧」が作成されており、食料、水、生活用品や介護用品などが屋根裏に保管されている。備蓄品の管理は、管理者が行っており、必要な入れ替えを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員チェックリスト(入居者対応・言葉遣い)で、職員自身が自分の心に問いかけ、利用者のプライバシー尊重に十分な配慮をしている。	4種類の職員チェックリスト(入居者対応・言葉遣い)があり、1種類を年2回実施し、利用者の尊重やプライバシー保護に取り組んでいる。日々の取り組みは、月に1回「利用者の希望を聞く日」を決めており、行きたい所、したい事などを直接本人より聞き取り、その後取り組んだことを記録に残している。また、声かけしたり話を聞く場合、声の大きさ、子ども扱いしない、敬語で話す、傾聴し同じ目線で否定せず受け止めるように努めている。プライバシーについては、トイレ介助や入浴介助の際に、特に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立やお茶の種類のリクエストを求めたり、レクレーションの選択をご本人に委ねたり、家事も利用者の得意なことをお願いしたり、外出先もご本人の希望を最大限取り入れたりの配慮をしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の生活のペースの尊重に努めているが、夜間入浴や自由な外出等、今の厚労省の人員配置基準と介護保険報酬では、これ以上の支援は難しい一面もある。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は香りの異なる乳液・化粧水を選んでもらったり、ご自分の馴染みの物を持って来て頂いたりして楽しんでいる。髪はカラーを巻いたり、くるくるドライヤーを使用したり、マニキュアや化粧も楽しんでいる。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決定から買物、調理、後片付けを利用者と職員と一緒に、バイキングデーと手作りおやつの日を設けている。旬の食材をいち早く取り入れ、多用している。	献立は、昼食から翌朝の朝食までを、決められた職員が利用者の希望を聞きながら作っている。脂っこくないもの、昔ながらのものになるよう考えている。食材の買物は、ほぼ毎日行っている。調理は、元気な方が多いので、ほとんどの方が下ごしらえ、切る、炒める、味見など何らかの手伝いをしてくれる。毎週日曜日は、バイキングデーであり、そのため日曜日の前までに「何を食べたいか」を聞いている。希望の出たメニューを何種類か作り、皆で好きなものを食べて楽しんでいる。誕生会や季節の行事ごとでは、いつもより少しだけ豪華な食事も楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	若手職員が多く、自分達で高カロリー食を提供して、代表者に注意を受けた。現在はヘルシーメニューを心掛け、降圧剤服用者が多いので、減塩をしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1回の歯科検診の実施・毎食後のうがいの徹底・就寝前の入れ歯洗浄の徹底を図ると同時に、1人1人の歯磨きチェックや義歯の状態等を全職員が把握出来るシートを作成した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家族のオムツ代軽減の為に、全職員が多くの商品が並んでいるドラッグストアに出掛けた。余りの商品の多さにビックリした。そして夏場、2人の利用者さんにリハビリパンツを布パンツに変える試みを行った。	排泄チェック表を作成しており、全員を対象としている。ただ、半数は布パンツであったり、多くの方が自分でトイレにいらしている。そのため、排泄が自立している方については、確認できた場合にチェックしている。自分からなかなかトイレに行かない方とか、失敗の多い方に対しては、タイミングよい声かけを行い、失敗を防ぐように取り組んでいる。また、使用するパットは、昼間と夜間とで使い分けるなど、介護用品の経費を削減できるよう配慮している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を多く取り入れ、歩行運動を継続し、腹部のマッサージを行い、起床時に冷たい牛乳を飲んだりしている。又、おやつにヨーグルト・ヤクルト・バナナ・焼き芋を食べることも多い。努力してもダメな時は、主治医に相談している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯に縛りはあるが、職員の負担と業務の優先順位等を総合的に判断し、入浴回数が多ければ良いと言う考えを捨てた。又、色々な香りの入浴剤や、菖蒲湯・柚子湯等を楽しんでいる。	月・木の午前中に入浴を行っている。その日入浴を拒否する方もいるが、「今日はこんなお風呂だよ」とか「きれいな色してるよ」とか、その気になるように声かけを工夫し、入浴してもらっている。現在ははいないが、どうしても嫌がる方には、足湯をし、着替えをし、次回の入浴日に入浴してもらおうなど無理強いはいしない。入浴の際は、3種類の入浴剤や3種類のシャンプーを選んで使っている。また、菖蒲湯や柚子湯などで季節を感じ、入浴を楽しんでいる。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不眠がちの方には日中身体を動かし、足元が冷たい時は湯たんぽを使用したりして安眠確保につなげている。そして、主治医と協力しながら睡眠導入剤減薬に努めている。利用者は要介護度が高く、日中のうたた寝も多い。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月、薬剤チェックリストで、現場・代表者共、不要な薬剤のチェックを行っている。又、請求書発送時、家族に薬剤情報を送付している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望場所への外出や、楽しみごと(絵手紙・読書・パズル・大人の塗絵・スイーツ教室・カラオケ・お経・おどり・ラジオ体操・歌体操)、家庭菜園等、一人ひとりに合った活動参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に基づき、天候と体調に相談し、散歩・お参り・ショッピング・ドライブ等に出かけているが、現在の人員配置基準では、こちら辺りが限界。元職員をボランティアとしてお願いし、外出支援を多く望む利用者の対応をお願いしている。	気候の良い時期には、よくドライブにでかける。桜の時期には、近くの羽咋川沿いの桜を楽しんだり、鹿島路など桜のきれいな場所に出かけている。買い物は、近くのスーパーや近所の商店に職員と一緒に歩いて行く方もいる。また、少人数で近くのラーメン屋に行ったり、千里浜の道の駅にパンを食べに出かけたり、歌の好きな方2～3名で、歩いて行ける近くの喫茶店へカラオケをしに出かけたりしている。あるいは、本人の希望で、図書館と一緒に出かけたり、本人の自宅近くにドライブに出かけたりしている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者3人が金銭管理をされており、お金は買い物や神社仏閣への参拝時のお賽銭等に使われている。金銭出納帳は1か月に1度、担当者・管理者が点検し、家族から確認印を頂いている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族には電話したり、絵手紙を作ったり、市販の絵葉書に一言コメントを書いて投函したりしている。30年年賀状は、字が書ける人には書いて頂き、書けない人には職員が代筆した。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室窓は採光の為に大きく取り、畳や障子を使用し、居間からは季節ごとの草花が咲く庭が見渡せる。トイレは混乱を防ぐ為に便所と表示し、蛍光灯も太陽光の暖かい物を使用している。足腰の弱い利用者の日光浴用に、ウッドデッキがある。	高齢者にとって居心地よい空間となるように、畳や障子を多用し、居間からは季節ごとに咲く草花を見渡すことができ、ウッドデッキから桜や季節の花を楽しむこともできる。日中はリビングで過ごす方がほとんどなので、食事の後、おやつ後は必ず換気をしている。職員は、利用者の相性や身体状況、日当たり具合などを考慮し、ソファやテーブル、イスの配置を考えている。前には畑があり、利用者の4～5名の方が、草むしり、水やり、収穫したり、畑の世話をしてくれる。また、プランターに花を育て皆に見える場所に置いたり、玄関には生花を飾ったりして、季節を感じられるよう配慮している。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(居間・廊下・玄関先)では、所々にソファやベンチを配置し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。又、ウッドデッキを作り、日向ぼっこに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品・馴染みの品を、家族に持参して頂いているが、これ以上の協力は難しいので、最近は絵手紙等を飾り、花の季節に本人の写真を撮り、額装して飾っている。	居室の風景はその人その人でバラバラで、その人が居心地よい、その人が過ごしやすい、その人が安心できる居室環境にしている。ただ、快適に過ごせるよう室温・湿度・換気には配慮している。また、毎日利用者と一緒に、掃除機をかけている。月1回のシーツ交換日前に、居室掃除として特に丁寧に掃除を行い居室の清潔保持に努めている。職員が居室に入る際は、本人に声をかけ、了解を取っている。居室には、家族の写真やアルバムを置いている方もいる。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が純和風となっており、畳を使用することで気持ちが和らぐ。トイレは「便所」と分かり易く表示している。全館ほぼバリアフリーになっており、また足腰の悪い人に配慮して、所々に手すりやソファやベンチがある。		